

## ◎ 豪雪と原発

原発事故や地震は、時を選びません。

豪雪と事故が重なったらどうなる？

(たんぽぽ舎メールマガジンから転載しました。ウラ面参照)

◎ 熊本一規さんの ZOOM 学習会「上関原発と中電訴訟」12月17日(土)は、

動画をアップしました。 <https://www.youtube.com/watch?v=TXCTkR8yFmY>

学習会のレジュメは、熊本一規さんのホームページ及びいのち・未来うべのブログで入手できます。12月22日に開かれた口頭弁論での清水代表の見解が、法律面から全く正しいことが納得できます。違法行為を行っているのは、中国電力です。

朝日新聞山口版 2022.12.23 〜〜〜被告側は事前に答弁書を提出し、この日は出廷しなかった。島民の会の清水敏保代表は「私たち漁業者は釣りをしているだけ。妨害しているのは中国電力。利害関係者である漁業者に同意もなく調査しようとしているのは納得がいかない。祝島の漁業者は、中国電力に埋め立てやそれに伴う調査等に同意していない。補償金も受け取っていないし漁業権も放棄していない。一日も早く上関原発を白紙撤回にしていこう」とのコメントを出した。〜〜〜

◎ 「国民不在の原発回帰」 毎日新聞クロースアップ

<https://mainichi.jp/articles/20221223/ddm/003/010/065000c>

◎ 原発反対を明確に掲げた候補者を推薦

小中進さんのブログ <http://blog.konaka.sunnyday.jp/>

# 考える素材

発行：いのち・未来うべ 資料と意見 №083 2022.12.23 (金)

宇部市立図書館雑誌スポンサー『世界』（岩波書店）を提供

連絡先：〒755-0029 山口県宇部市新天町1丁目2-36 宇部市民活動センター「青空」

ブログ：<https://blog.goo.ne.jp/nonukes2013> 電話 080-6331-0960 (安藤公門)

原発ゼロへ！金曜ウォーク@宇部へご参加ください。

毎週金曜日 午後6時 集合場所：新川橋（ヒストリア宇部 横）

原発をめぐる動き、全国の運動など情報交換とアピールの場です

## 豪雪と原発

たんぽぽ舎メールマガジン「【TMM:No4660】2022年12月22日(木)

地震と原発事故情報一」から転載します。

豪雪地帯の原発の危険性

### 実行性のない避難計画 大雪で原発事故が起これば5キロ圏内絶望

山崎久隆（たんぽぽ舎共同代表）

◎ 「大雪で原発から避難できるのか 柏崎刈羽近くの住民『実効性ある計画を』」

これは毎日新聞の記事だが、何時のものかというところ「2021年1月30日」およそ2年前の記事である。

「今冬の記録的な大雪で、厳冬期に東京電力柏崎刈羽原発からの避難ができるのかという疑問が、原発近くの住民から出ている。新潟県が2019年に策定した広域避難計画では、積雪による交通障害の影響は考慮しておらず、多数の住民を避難させられるかが改めて問われる事態になっている。」と警鐘を鳴らす。

◎ それから約2年、今年も一昨日頃から降り続く大雪のため、約38時間にわたり柏崎市内で大規模な交通遮断が発生した。しかも、国道8号線と国道17号線が南北で遮断され、事実上柏崎市は孤立状態になった。通行止めが原発からわずか2キロのところで起きていた。

◎ これでは何があったとしても原発への救援さえ出来ない。住民避難はもちろん不可能だ。誰1人脱出できないだろう。除雪作業がすすみ、国道の開通を見たのは今日(12月21日)のことだ。交通遮断と原発事故が同時に起きていたら、最も危険な初動の1日に避難不可能になっていた。

◎ 上越タウンジャーナルの11月16日の記事では、「大雪時の退避に不安の声 原発「三つの検証」で説明会」と題して、上越市での県による説明会が紹介されていた。ここでも大雪での避難の実効性に多くの不安の声が出されていることが報じられている。

◎ それに対して県職員は、「多種多様な意見、提言、皆さんの声も参考にしていきたい。ストレートに答えられずに申し訳なかったが、なるべく皆さんと対話したい。一人一人の貴重な言葉を持ち帰って共有し、参

考にしたい」というまとめの発言をしている。つまり実効性のある計画はできていないことがつい先日も明確になっていた。それが一月後に現実のものとなった。

福井県でも大雪遮断は発生

◎ このところ、日本海沿岸部では、毎年のように長時間大雪の影響で交通遮断が起きている。2018年2月6日から福井県嶺北地方は大雪に見舞われた。その影響で数日間にわたり1500台もの車両が動けなくなり、国道8号線を中心に交通遮断が発生している。この時は主に荅北地方という、原発とは離れたところでの遮断だった。しかし同じことは原発の周辺でも起きる。

実際に、敦賀市から滋賀県長浜市への国道8号線が遮断されたこともある。

◎ そうした時に原発から大量の放射性物質拡散事故が起これば、いかなる事態になるだろうか。初期に放出される放射性物質の大部分は希ガスと呼ばれる気体状のものだが、ヨウ素も大量に含まれる。これらは降雪時には地表近くに滞留する。また、セシウムなどは雪に取り込まれて降り注ぐことになるだろう。その場合、拡散しなかった放射性物質はより原発に近い場所に堆積するから、その場所で高い被曝になる。放出量が多ければ致死量に達することもあるだろう。

◎ 原発から半径5キロ（PAZ圏内）は、冷却材の大量喪失による冷却不能の事態や全電源喪失の場合には自動的に避難が実施されることになっているが、今回のような豪雪時には不可能である。こうしたことが、少なくとも泊、東通、女川、柏崎刈羽、福井県全部、島根、玄海では起こり得るのである。

（※事故情報編集部より、この原稿は12月21日に届いたものです。）